

## 熊野本古墳群

熊野本古墳群

熊野本古墳群は、弥生時代の熊野本高地性集落に

隣接する北側の丘陵を中心に立地しています。円墳・

現在、三十八基の古墳が確認されていて、円墳・

方墳・前方後方墳・前方後円墳の基本的な形の古墳

がすべてそろっています。

また、熊野本弥生墳丘墓から時期的に隔たりなく、

連続的にこの地で六号墳（前方後方墳）十二号墳（前

方後円墳）十八号墳（一辺約二十山の大型方墳）・

十九号墳（一辺約四十山の大型円墳）が築かれてい

て、古墳の形や規模などから湖西地域の代々の首長

を埋葬している古墳群と考えられます。

平成十二年に発掘調査した六号墳は、全国でも数

ヶ所の前方後方墳として、古墳の築造史の鍵を握る

重要な古墳として注目されています。

# 熊野本遺跡 (高地性集落)

熊野本遺跡は、**粟庭野**と呼ばれる丘陵上、標高約

一五〇mの高台に立地しています。

ここからのながめは大変よく、**安曇川**によって形  
成された平野や琵琶湖を一望することができます。

平野には**針江遺跡群**と呼ばれる弥生時代の集落があ  
りました。

熊野本遺跡は、出土した土器から、**弥生時代**(今  
から約二千年ほど前)に営まれた**高地性集落**と呼ば  
れる遺跡です。これまでの発掘調査で、**竪穴住居**が  
三十棟以上、**竪穴柱建物**、**墳丘墓**などが見つかって  
います。これらの分布から、東西約三百m、南北約  
二百m、面積約六十m<sup>2</sup>の大規模なムラであったと考  
えられています。弥生期内で最大、近畿地方でも最大  
クラスの**高地性集落**といえます。

高島市教育委員会



熊野本遺跡墳止墓  
 熊野本遺跡の東端の平野部が一  
 望できる地点に墳丘墓は立地して  
 います。弥生時代後期末の湖西地  
 域の酋長墓と考えられます。規模  
 は東西約一メートル、南北約一メートル  
 あり、高さは約一メートル半残って  
 いました。墓の周りには人頭大の  
 石が多数出土して、石を墓の  
 周りに貼る貼石墓はりいしほと考えられます。  
 この石にまじってL字状石柙いしねと  
 呼ばれる朱と作る道具も出土  
 しています。墓の中央では木棺跡  
 が確認され木棺の中からは首飾り  
 と考えられるガラス玉が七四一個  
 と水銀朱が出土しました。

新旭町教育委員会云

## 熊野本六号墳

六号墳は、全長約二八四の前方後方墳で、標高約一六五四の丘陵上に立地しています。この古墳からの見晴らしは大変よく、平野部や琵琶湖までを一望することができます。

墳丘は、南側の斜面の幅を広く築造していることから、生産基盤である平野部を意識して築造されたと思われる。このことは、被葬者の権力を示す柱大に見せるための工夫と考えられます。

発掘調査では前方部から破砕された土器と焼土が出土しています。古墳時代前期の湖西地域の首長墓と考えられます。

また、同じ尾根筋には全長約三十四の前方後円墳と考えられる熊野本十二号墳が築造されていて、墳丘の裾下から垂の破片が出土しています。



◆自然観察



さくら (ソメイヨシノ)



スミレ



カンサイタンポポ



セイヨウタンポポ



シダレザクラ



ホトケノザ



ヤマザクラ



クロモジ



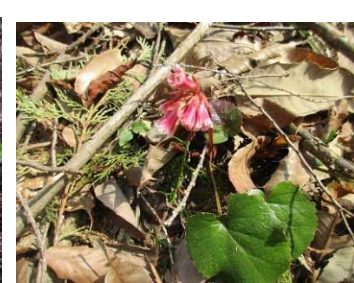
イワナシの実



イワナシの花



ショウジョウバカマ



オオイワカガミ



イカリソウ



ミツバツツジ



ミツバツツジ 蕾



アベマキ幹



葉



ゴヨウアケビ



サルトリイバラ



タチツボスミレ



アオイ



タムシバ



ネコノメソウ